

朝鮮日報

第五千六百五十九號
中華民國三年二月十四日
星期日

本報地址：朝鮮京城
電話：二二二號
發行所：朝鮮京城
印刷所：朝鮮京城

本報宗旨：報導朝鮮新聞，傳播世界消息。
本報特色：內容豐富，報導詳實。

本報訂閱：本報訂閱費如下：
國內：每月一元，半年六元，全年十二元。
國外：每月二元，半年十二元，全年二十四元。

本報廣告：本報廣告費如下：
第一版：每行一元，第二版：每行八角，第三版：每行六角。

本報地址：朝鮮京城
電話：二二二號
發行所：朝鮮京城
印刷所：朝鮮京城

本報地址：朝鮮京城
電話：二二二號
發行所：朝鮮京城
印刷所：朝鮮京城

門司特報

門司特報 (九日) 生

門司特報 (九日) 生

門司特報 (九日) 生

門司特報 (九日) 生

門司特報 (九日) 生

門司特報 (九日) 生

門司特報 (九日) 生

非關國員捕送

▲捕送の目的 ▲捕送の場所 ▲捕送の方法 ▲捕送の結果

城方面の事情

▲城方面の事情 ▲城方面の事情 ▲城方面の事情 ▲城方面の事情

清商倒産多

▲清商倒産多 ▲清商倒産多 ▲清商倒産多 ▲清商倒産多

釜山領事館の調査

▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査

電報歸客談

▲電報歸客談 ▲電報歸客談 ▲電報歸客談 ▲電報歸客談

釜山領事館の調査

▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査

釜山領事館の調査

▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査

釜山領事館の調査

▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査

釜山領事館の調査

▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査

釜山領事館の調査

▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査

釜山領事館の調査

▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査

釜山領事館の調査

▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査 ▲釜山領事館の調査

萬金物問屋

大工道具

信州録

打物

金銀類

店高村下光

現錢 六割參分

手形 十八割壹分

佛蘭西騎兵の花

佛蘭西騎兵の花

日本村

佛蘭西騎兵の花

社說

(何尊の滑稽より御前會議の流會)
去る七日の轉御前會議は人員未滿の爲
に、七日の午後一時、何等の滑稽を以て
行ふ。此の時、何等の現象ある可きや。

に解用するにつづき同國公使に照會して處分
されたものと報告せり

▲一連會員の負債 去日平安通商川に於
て該部職員と一連會員との間に負債を生じ
一連會員十四名の負債者を出せし原因は該
部が該部員の体給少なき爲め人民より金
銀を徴收せしとせしと一連會員等が無名の
債權なりとせしを拒絶せしを該部員等不快
に思ひ得しにあらむが如し

▲善和宮殿下 近日離韓あるべしと傳へ
られたる同殿下は何人も認めらるゝ如く趙
王とて呼ばれしと云ふに似たり

一、第一の査定案と其國公使の計に照し、
國公使は少なくとも其意領たけに賛と其國
政府の同意を經ざるべしとるに今日迄の意
國公使の計には第一體面の外未だ何等の固
附もなく昨日の如く加藤總閣が同意件に
關し轉國皇帝に拜謁之が經過と云々發せし
迄なりと云へ其數表は何日頃となるやは
未だ決定せずと云ふ

●京城水道の政府補助金 京城府
留地の水道工事は目下上京中の中井同居留留
民長進力の結果政府より工事費二萬五千圓

なりし青森青森社は株主の都合に依り来る十五日午後七時より南濱町ノ高座に開會
由り開會せる重役會議の決議事項を協議する
過日なり
●綾橋青社協會　　昨日午後三時より開會
●小學校授業時間の變更　　羅兵衛事務多
忙且、整理等の不十分を免れは爲り尋常、
高等學校平日授業の時間となし度ししが本
日より高等全科だけ午後授業を爲すこと
になせり
●京金製造用品と北海屋　　南濱町の賣店

船 舶 出 入
 ○オホム 昨日午前に港五時仁川に
 ○板州丸 廿四日元山に回航
 ○手取川丸 廿七日入港
 ○青龍丸 昨日郡山木浦に回航
 ○オホム 十五日仁川に回航
 ○安東丸 昨日午前入港午後本郷に回航
 ○義州丸 十九日入港仁川に回航
 ○ 〃 〃 十六日生后入港同日大板回航
 ○耶山丸 十八日午後入港同日大坂に回航
 國 民 論 竹 露
 ▲自ら任じ自ら信じ自ら重んじ堅忍不撓以

海軍々人に聞はりし機手足及び義眼は日本海軍々人へ義手三義足七義眼三にして目下機手は浮座にして收容し居る故郷ワリヤーの義眼は義手二義足四なりと云ふ

▲機組員 天皇陛下には慈愛の折柄沙河戦陣の左翼軍落台の大戦戦に引接ぎ各方面に於ける彼等の絶火闘撃なりと昨今降敵下土產の辛苦及び氣候に伴ふ傷病者の狀況等に関し一方ならず御念あせられ給ひて目下慰問使として戦地にある岡澤侍從武官長に對し時日の許す限り其實況を細密に視察遊

沙河方面敵報は毎日我陣地各所を砲撃し、
達達西^{達達}南に新たに廿四門の砲壘を構築せり。
●**和確實あらん**

藤樹公は元平、隆子、知の喜はるる所となり料
 書を受けたりとなり今國の機嫌に之は何
 等かの關心あり若くは之を利用して該國
 なる機嫌をば謀算あるやの認めるとは凡
 し該國に現今の關係を知らざるものい推測
 なるが如し

▲新任清國公使の謁見
 廣氏本月廿午、謁帝に謁見し國書捧呈の望

▲新任清國公使の謁見
 新任清國公使謁帝

の補助を受けるものととなりしより去七日、
京城留民會を開き山口、木下、橋本、松本、寛太、
郎、濱野、次郎三氏を其設計委員に指定しし
た。

釜山

●居留民最近現在數(フヤク)

宮城	男	女	計
一四	一	一	二
二五	一	一	二
二八	一	一	二
三三	一	一	二
一五	一	一	二
計	一	一	二

●火車橋の取付
去る十日の火災にて北濱通上の商店何れも多少の損害を蒙た。尤も此は勿論被害を伴ひて阿れ、茲種々の取引形勢に促るゝ。殊日事業の状態よりしたる。

て戦局に懸かり進んで努力するの勇氣と退いて情態を節約する心の慎重とを有する者にあらざるは利己軍國の民として獨立歩する能はざるなり

▲其鐵櫛の潔白なる無垢の鏡面の如く其胸の清淨なる無瑕の白玉の如く庶幾潔を極めその意を有する者にあらざるは利己軍國の民として獨立歩する能はざるなり

▲敵討還讐己に劣るは之れを愛し己に劣る能はざるなり

奏すべき旨御下命あらせられたる今に承る
▲東郷大將の出發 愾愾ありて滯京しう
したる聯合艦隊司令長官東郷大將は廿六
日午後四時三十分其の幕僚を従へ湖國越後
の湖北の空を睥睨し華かにある榮ある暴陽の
美態に輝く光線を背にして任地へ赴きたる
此日新橋停車場には各大臣閣僚將校外郎
武官等見送り特に又市民の亦各團體夫々
旗を揮立て万歳を叫呼して見送りしもの毎

露國諸大公の講和決議の確ある説として
●日米仲裁定約成る
（同日午後五時六分着）
日米仲裁定約の本月
十一日の巴立節北米

●咸興近音
咸興の略今 咸興は元山と去る三十里成
寧南道の首府にして北韓の大邑たり今嚴々
我軍取直して韓民服服し前年賊盛ならんごし
つゝあり其位固懾わも釜山の大師の如く而
かも海路の便あり小艇潜進して元山より
六時程にして西鄙に達し夾れより隘路四里
程のみ我軍屯駐してより邦人の定數なる
の乗往を禁せしめ今や我軍を容るゝを以て

廣 島	岡山	鳥 取	富 山	石 川	福 井	秋 田	青 森
一四五八	一六六六	一五三三	三三九	三三六	三三六	一一二	一一二
二八八	九〇	九六	二七	二〇	六三	七二	一一
一六三八	二四八	二四四	二七	五五	九	一九	五
三〇	一四七						

[illegible]

優るは之れを教し他をして獨愛の心を起さしめ信義の爲めは身を磨削の如く捨てし情懷乎他と約したるとは堅きと金鐵の如くて食言せざるの硬意を有する者にあらざるは到底軍國の民として獨立邁歩する能はざるなり

▲内憂外患交々來ることも絶望天地に轟くことも白刃前に閃くことも泰山後に崩ることも神虎

重一万はかりにて類る狂なる途別なりし

▲義勇隊の内規改正 同義隊にては今月内規を改正し自ら贈金せざるゝ贈金贈出の紹介せし者又は贈金者に伴ひ紹介金額を五百圓五百圓千圓の三種に別ち前二者とは金額の徽章を贈與するおきてなれり

▲市況 大戦ありて大快戦の號外の鈴の多き聲と聞きえたるゝ市場の人氣引立ち行

て調印を終りたりとの公報ありたり

て開放する事となし、**元山**在住民の移住するもの少なからず殊に婦人の移住をも許したるを以て、**糠**からすして一の小居留地を見えだするに至れり大資本を放下して營業すへに程に非されと小賣店、飲食店及其他之に類似したる業種を聞かざるは、今や亦も其時與ふべく而して對人に対する日詰教育の設備、整ひだれば、**元山**を有するもの

和歌山	徳島	香川	愛媛	高知	龍岡	佐賀	熊本	宮崎
八八	八二	七二	一〇〇	一五三	四五二	四六五	二〇〇	二〇五
一八	五五	四〇	一四六	三九	三八〇	四五三	一三三	一三六
三〇	三〇	一一	二四六	一一	八三〇	九一五	三三三	三三三

▲美粧品、白粉など、精製されたものは全
界の活動市場に近づけるもの、餘は
學生に賣賣、眞鍮より、技術師、主人にて來
て食事を睡眠の時間の外、一瞬も休まなく業務
を従ひつゝあり▲日本より海外に輸出する
る事として日下、東京、知人に之を、賣却方と佐
領し居る▲密實、皮膚の中にも、不透明、白金之
イ紙、紙巾は最も得意とする處なりとい

目者として萬里監臨が、その國家の安否をも
 肩に擔ひて鋭意奮進するの覺悟を有する者
 居らば、すんは到底帝國の民として獨立邁進
 する能はざるなり
 ▲親統を問はす愛憎の別なく利の爲めに偏
 せす勢の爲めに黨せず與する處は正理と公
 道あるのみ是れ之を軍國民の公義心と云ふ

●東京通信 (二月九日發)

はあれ迄の例なるが時下日に氣候の陽氣なり行くと共に一方には奉天攻陷の日焦に迫り露を以て人幾何となく引立露れ

▲舞臺 臺の中の氣候は左様にしなかりが節分のあける昨今では寒氣甚だしく甚し氏二、三氷度三乃至二十四度四沙也されし水洗淨の水氷結して日中に至るも熔けざる様なり

▲梅花 春まだ寒き頃ながら日當り良き

日唐軍屯集錦子小嶺台（錦江堡の地方約一
里）附近の敵精兵は我陣地の各所を砲撃せし
り七日前一二小隊の敵歩兵は馬園子山麓附近
電附近に來襲せし我前哨は悉く之を撃退す
せり方々園子李大屯砲臺日倭兵黑溝寨のめ
面にありては敵兵防禦工事を繼續しつゝい

●京師の仁川紀念日
は去九月午後五時より日本人俱樂部に於て聯合記念會を開き同日七時半よりは日本公使館に於て夜會の催しを爲せりと

●京城在留の官吏
が京師中環路の開通大々京滬鐵道線中京

●物品の物價等は是れ西曆三月二十四日

北海道人
●第三區組長副組長皆選
せる第三區衛生組長及副組長選舉會に於
けるの通り當選せり
組長
副組長
山本 照倉の奉公
常居留地在勸進堂山本
幸作氏は今回倉十干園に歸郷に會五圓に
石川 貴松
有光 直志

へり。此高僧なる印蹟は何れより見るも毫
毫の竒異して日を逐ふて依願者の數を増し
現今寫眞の總てに對する四五の數に達せし
早晩此恒續ある寫眞が一般に採用せらる
事とならん現に京阪に於ける有力なる寫眞
師には大抵寫眞面已にてと云ふ寫眞の如
きは最も相なる所なり昨年十二月寫眞料を
上げた結果時に折衝し相續したる一切之
を惠給し其更に折衝し價低減品等も發見

▲政友會代議士總會　七日午前十一時、議員館内に於て開會し、外調買辦條道及浮屠刑罰の二法案は委員長報告通りに決次し、次に佐山正和より提出して市街宅地市價修正建議案を讀み、議決せんとの發議ありしが結局同案は目下政府との妥協條件中にあるものなるに會禰羅君が之を條件外なりとしたるを以て、別に總務委員として交済せしめたる以上市價修正建議案は議會で手交と爲せしむる

繰なる湯島神社境内の梅花は、や見事
 雪を破りて芳香を放ちて、日比谷公園内の
 梅も漸く昨今咲き初めたり、江東梅園、鬼
 川、杉田、蒲田、龜井、あたりは来る十二
 頃よりは見事なるへし

飯 前 茶 後

同盟艦王で大砲を派じつゝある露艦では
 更に同盟艦食と云ふものを發明したと云ふ

月四日國書を轉呈せられたるを以て自今兩國の交渉事件は本官其任に當るべしと
列國の送別と清國公使の歸國
公使許彥身氏は本官を以て謝意を表す
客ならば外部は一昨日公使の去る時
別荘を遊べり
○本城筑前藩
他二三の技師を雇用して平壤の砲臺を修めしむるに資せしむるを以て

城平機関の既と開通せしむとは既にの如
 くなるが去る二十九日午蒙に於て盛大なら
 開通式と舉行せり
 茲に并々大連の開講
 當其等の宣旨たる婦人達は去八日午後三
 時、俄國の官廳に於て開講し手紙の配當を
 取りたりと云ふ
 官制の改革、新表、現
 國議の官制

海軍に憧れ最として献身申出たり
●依願免職 釜山小學校風教員原田九郎氏
氏は依願職務を退せられたり
●新任小學校校長着任期 神戸小學校より
富澤小學校に轉任さるべき高橋昭氏は目下
授業開始に至るべしといふ
●新小學校と授業開始 新小學校と授業開始
●結婚を告ぐるに聞近なり 居れば來る二十
●授業開始に至るべしといふ

萬價の者を用ひ紙紙の如きは善者の改良を
加へ研新高尚なる各種の者と聚合せ以て空
裏料直上げに預かんと爲してあり。○同店
の減として客へは善者と勸められ。○人々
は智略に陥らぬ勿れ而も決して無識なる勿
▲遺物の往復に時間を費さす勿れ。▲虚飾
交際を以てするよりも實力に因て客を招
きに勤めよ。

程に上することは一決して午後二時散會と
 ▲進歩黨代議士會 七日午前十一時開議
 都に於て開會鳩山勲夫より同日迄の衆議
 院舉日程を報告したる後右島嶼議決は屠場
 室及醫畜市場法案を議會に提出する同意
 求められより神前東藏は國籍法中改正法
 案を提出して同意を求めたるに右右島嶼提
 案と同時に取扱ふ事に決し其他二三の討

それは露國ツァルナ監獄の在監囚徒は其の過半幾度を経り、官給の食物は漸く地上に抛めて同盟斷食を繼續せざるべしと沙河に在の露軍は今に同盟投降せるを聲明するかも知れぬ▲要點の一大佐が成る羅紗製造の許に來り、羅紗約五百萬疋を賣上げんとしたとの約定に準ひ曰く、買上代金は上長官一名に、五万兩は推して餘らば羅紗は何等の検査

